

2007年6月23日(土)・24日(日) — 第1回 —

## JAみやぎ仙南 田んぼの生きもの調査

東京の子どもたちも熱心に生きものを観察



調査日時：2007年6月23日・24日

参加人数：約50名

参加団体：東都生協組合員等24名、丸森町産直ふるさと米部会生産者15名、JA職員4名ほか

調査地点：丸森町越田・ふゆみずたんぼ・減農薬栽培  
(菊池良平さん) 同・乾田・慣行栽培

調査項目：基礎調査、生息環境調査、イトミミズ・ユスリカ調査、コドラート調査、カエル調査、クモ調査

### ふゆみずたんぼは抑草にも稲の生育にもよいと実証

調査2年目のJAみやぎ仙南では、昨年に引き続き宮城県丸森町越田地区にある菊池良平さんの棚田で調査を実施。比較対象のため慣行栽培田も調べました。

昨年と違うのは「ふゆみずたんぼ」にしたこと。その結果、イトミミズの数が倍以上に増え、雑草もほとんど生えず、「畔草刈りの時に少し大きいものを取ったくらいで、手間がかからない」(同)。1反の田んぼ2枚を1枚にまとめた際に土盛りした部分が山砂なので土質は必ずしもよくありませんが、生育はほかの田んぼと比べても上々でした。

ふゆみずたんぼは、水を張ったままなので「畔塗

り」に機械が使いませんが、「これくらいの不便は差し支えない」と菊池さんは気にしない様子。

同JAの大槻栄俊さんは、「田植え1ヵ月後に事前調査した際、周辺とカエルの密度が全く違うことが実感できた。ふゆみずにすれば生き物が増え、生物多様性が高まることが実証できた」と話します。地域の生産者に環境保全型農業が広まる気運が生まれています。今回参加した東都生協の組合員からは、「農業の現場に来ないとわからないことがたくさんあった」「本物に触れる機会になった」といった声が聞かれ、体験交流としても有意義なものとなりました。

### JAみやぎ仙南

**産地紹介：**宮城県の最南部、福島県の相馬地方と接する山間部と平場・盆地が混在する地域。福島県南部から流れる阿武隈川の河口部に近く、沖合いで寒流と暖流がぶつかり、暖流の影響で比較的温暖な気候に恵まれている。丸森町産直ふるさと米部会は20年ほど前から減農薬栽培や東都生協等との産直を開始し、米生産者は現在91名。

**主な出荷銘柄：**ひとめぼれ、コシヒカリ



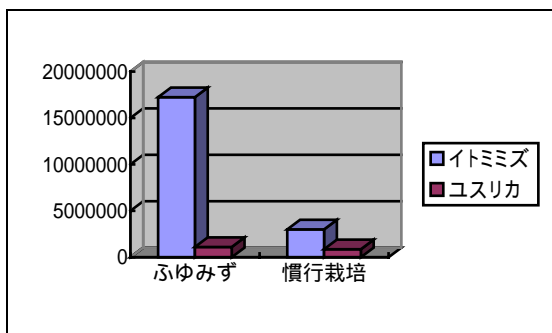
調査地：宮城県丸森町越田地区

## 結果発表！

	調査項目	ふゆみず	慣行栽培
土のなかの生きもの調査 (10aあたり匹)	イトミミズ	17,250,000	3,000,000
	ユスリカ(幼虫)	1,125,000	875,000
生息環境調査	調査時刻	9:45-55	10:28-38
	天気	晴れ	晴れ
	風	弱い	弱い
	気温( )	22.1	25.0
	水温( )	21.2	26.6
	水深(cm)	4.3	2.6
	pH(酸度)	9.4/9.26	7.93/7.9
	EC(電気伝導度、mS)	0.162	0.213
	DO(溶存酸素量、mg/l)	15.03	0.90
	ORP(酸化還元電位、mV)	-110	-120

\* pH値は左から水面下1cm/泥表面

丸森町の棚田は、「棚田100選」に選ばれた



## 見つかった生きものたち

ふゆみずたんぼ・コドラート調査(匹/10a 当たり): ドブシジミ 45万、ドジョウ 8万、ヤゴ 3万、タモロコ、ヒル、ヒラマキミズマイマイ、コミズムシ各 2万、マツモムシ、オタマジャクシ各 1万

同・クモ調査(株当たり個体数): コモリグモの仲間 0.05、ハシリグモ仲間 0.083、

同・カエル調査(匹/100m 当たり): ニホンアマガエル 33.3  
慣行栽培・クモ調査(同): コモリグモの仲間 0.05、その他カニグモの仲間 0.1

同・カエル調査(匹/100m 当たり): ニホンアマガエル 32.3



交流会で挨拶する菊池良平さん



産直米ほ場の説明をする大内部会長

## データを読む！ 大槻 栄俊さん(JAみやぎ仙南)

当日は東都生協の組合員さんの子どもたちが多く、丸森の自然環境と生きものに触れてもらうことを中心にしましたので、調査は午前中に生産者だけで別途行いました。時間的な制約もあって調査箇所数が少なくなりました。クモ・カエル調査などではふゆみずたんぼと慣行栽培の差が明確に表れませんでした。

ただ、田植えから1ヵ月あまり経った6月5日に生産者だけで行った事前調査では、去年とカエルの量が全く違い、周辺より生息密度が高いというのが実感でした。ミジンコもたくさんいて、それを追って魚もいる。栄養段階の低い生きものが増えれば、生物多様性は高まることが実証されたと思います。